

## コロナ禍を経て今、同窓会活動に思う事

観一高同窓会京阪神支部 会長 観一・22回 小山 正辰

(昭和46年卒)



2020年からの3年間にわたる新型コロナウイルス感染症の猛威による日常生活への多大なる影響下にあつて、皆様におかれましては様々な影響を受けられ、複雑な想いを種々お持ちになつてこられたと存じます。

2023年5月8日からの「感染法上の位置づけ変更」に伴い、新型コロナは「5類感染症」となり、少しずつ回復していく日々、皆さま対応しておられることと存じます。

皆様方に、これからも健やかな日常が続きますよう祈り続けたいと思います。

さて、私も就任2年目を迎えました。

母校観音寺第一高等学校の、同窓会行事も5月、4年ぶりに全体総会が開催され、100名を超える同窓生の方々が歓談、懇親の集いができることを喜び合いました。

「学校」は、皆さんにとつても、もちろん私にとつても、「思い出の宝庫」です。

小学校、中学校の義務教育のころ。

挑んだ高校、大学の時代。海外の学校、大学院の方もいらつしやるでしょう。

私は、昨秋古希を迎えました。

人生を全うするときに迫る中、学び舎で過ごした日々、友人、先生、先輩方とのやりとりを振り返り、思い出すことも多く、若さゆえの背伸びや過ち、無謀だったかもしれない挑戦など、それらのほろ苦さまで思い出します。

志半ばで方向を転換せざるを得なかったこと、想いをうちに抱えたまま、いまだ呻吟されている方もいるかもしれません。

ほろ苦さが残るゆえ、まだまだやり残したこと、挑んでみたいことが出てくるようです。

観音寺一高の3年間で過ぎて50年以上経つのに、その3年間で豊かであったことにいまさらながら驚かされています。私の3年間で豊かであったことに感謝、です。

私の観一時代には、こんなことがありました。○書きは私の今の感慨です。

1年生の時、東大紛争、安田講堂攻防、東大入試が中止となりました。

(東大を第一志望にしておられた先輩方、どうされたでしょうか。入試制度も、私たちの時代の一期・二期制から1979年度共通一次↓1990年度大学入試センターテスト↓2021年度大学入学共通テストと変わっています) 少子化の為、小中高の学校数は減少しているのに、大学の数は増えています)

2年生の時、アポロ11号が月着陸しました。

(宇宙空間の国際競争の時代はウクライナでさらに混乱?宇宙は衛星だらけ、GPSでどこにいても位置がわかる時代となりました。探し物まで出てきます)

3年生の時「大阪万博」が開催されました。

（観一では男子生徒の修学旅行が復活、私たち22期は修学旅行のない最後の男子学年となりました。2025年は再び大阪・関西万博の開催が予定されています。定年後通ったコスモスクエアの駅から、大阪メトロが延伸され夢洲につながります）

そのあとの、50年をどのように過ごしたにしても、有形無形の財産を観音寺一高の3年間からいただいている。そのように感じています。

だからこそ、同窓会の活動で皆さんにお会いし再び活力を得て帰ることができる・・・。

これからも生きていくのに、思い出が滋養になり、校友との交流が活力を生むことと存じます。

若い世代にもそう感じてもらえるよう、「学校」も「同窓会」も、彼らを支援し、私たちも自らを鼓舞し、楽しむことができればと思います。本年度もよろしく願います。